

議題 1

令和5年10月26日
学校教育指導第一課
学校教育指導第二課

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について（報告）

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査対象（公立学校）

学年	区分	調査実施校数（校）			調査実施者数（人）		
		国	広島県	広島市	国	広島県	広島市
小学校第6学年		18,618	449	141	964,350	22,850	10,167
中学校第3学年		9,337	240	64	893,528	20,149	8,648

（広島県・広島市は、国・広島県の内数である。）

(3) 調査期日

令和5年4月18日（火）

(4) 調査内容

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

(ア) 対象教科 小学校第6学年：国語・算数 中学校第3学年：国語・数学・英語
（英語は3年に一度程度実施、前は平成31年度に実施）

(イ) 出題範囲 調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

(ウ) 出題内容

a 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

b 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(エ) 出題方法

上記aとbを一体的に問うこととし、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。

（英語「話すこと」に関する調査は、全国で約500校が当日実施。その他の学校は4/19～5/26の期間内実施）

イ 質問紙調査

(ア) 対象 小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒

(イ) 内容 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する事項

② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

2 調査結果の概要

(1) 各教科の平均正答率（各都道府県教育委員会及び各指定都市の結果は整数で公表）

【小学校】

（単位：％）

教科	国語			算数		
	国	県	市	国	県	市
R3年度	64.7	66	66	70.2	70	71
R4年度	65.6	67	67	63.2	64	65
R5年度	67.2	69	68	62.5	64	64

【中学校】

（単位：％）

教科	国語			数学		
	国	県	市	国	県	市
R3年度	64.6	65	64	57.2	57	58
R4年度	69.0	69	69	51.4	50	51
R5年度	69.8	70	70	51.0	49	50

教科	英語					
	聞くこと、読むこと、書くこと			話すこと		
	国	県	市	国	県	市
H31年度	56.0	56	56	30.8 ※1	—	—
R5年度	45.6	43	45	12.4 ※2	12	14

※1 全国平均正答率のみ参考として公表されている

※2 全国の当日実施校が実施した調査の結果を、実施状況等を考慮した統計補正をかけ、全国値として推定されたもの（国公立）

(2) 正答数の分布状況（別紙1）

(3) 令和5年度全国学力・学習状況調査 各教科調査結果及び課題のある設問（別紙2）

(4) 課題の見られる問題の活用例（別紙3）

3 質問紙調査の結果について（別紙4）

(1) 学習意欲

(2) 自尊感情

(3) 主体的・対話的で深い学び

(4) 学習・生活習慣

(5) 指導方法

(6) ICTを活用した学習状況〔児童生徒〕

(7) ICTを活用した学習状況〔学校〕

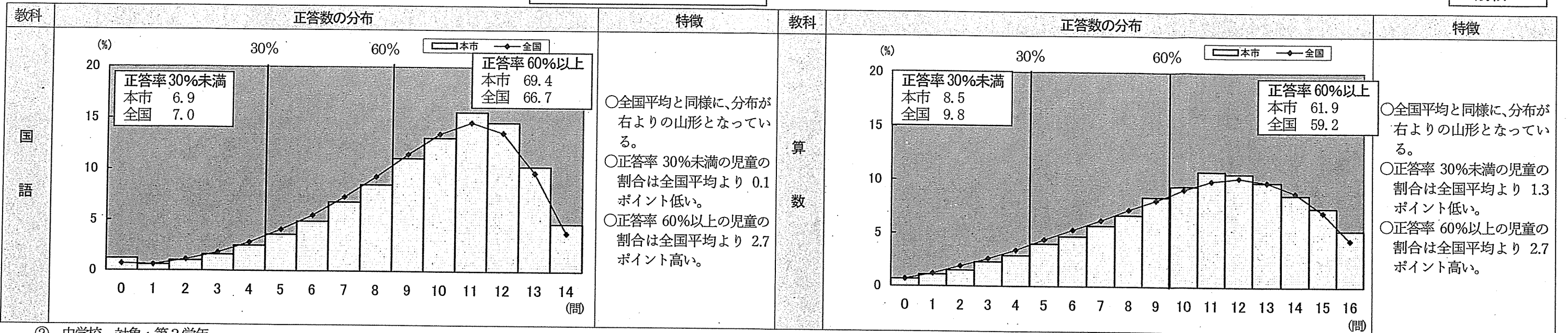
4 児童生徒質問紙と学力のクロス集計（別紙4）

2 調査結果の概要

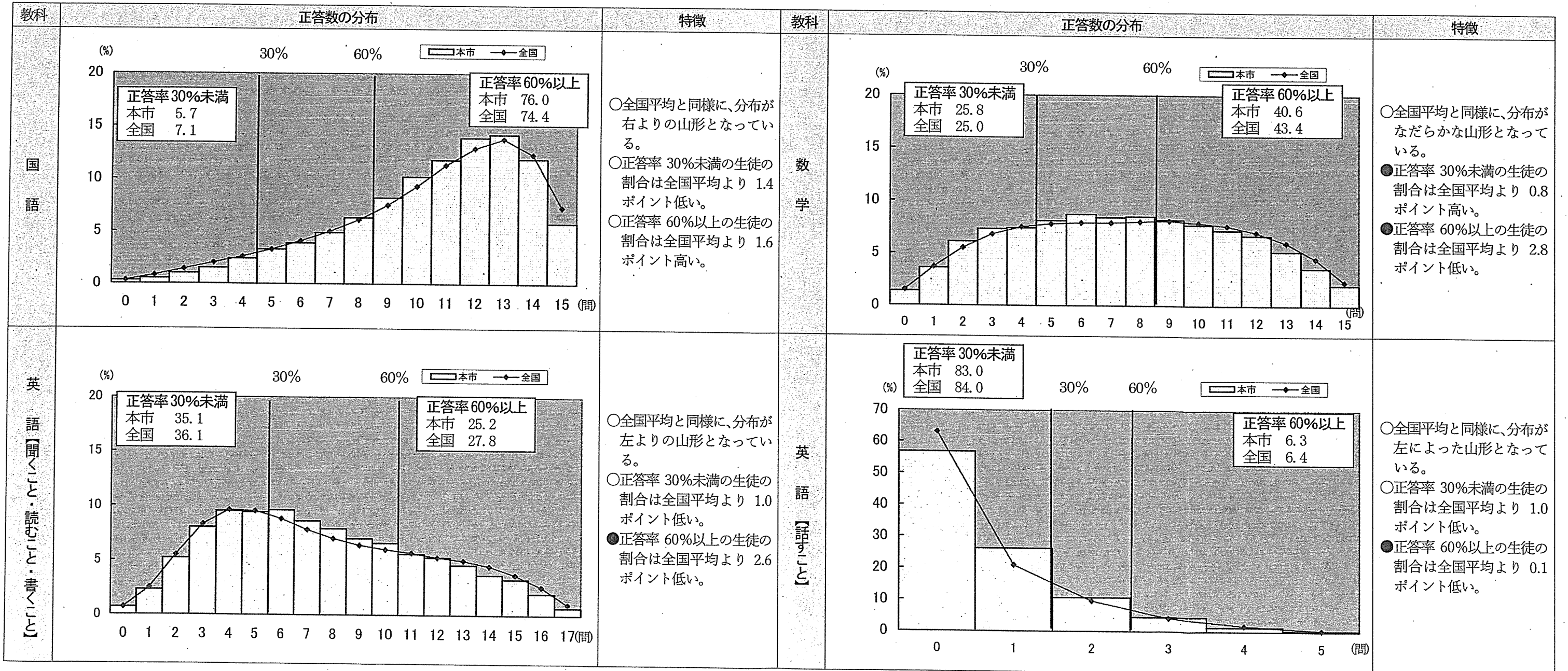
(2) 正答数の分布状況

① 小学校 対象：第6学年

別紙1



② 中学校 対象：第3学年

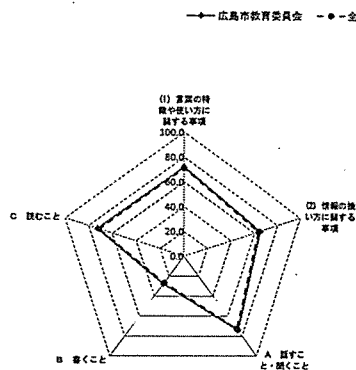


1 集計結果

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>

対象児童数		広島市教育委員会	全国
		10,165	964,177

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			広島市教育委員会	全国	
全体			68	67.2	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	5	72.1	71.2
		(2) 情報の扱いに関する事項	2	64.9	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	74.1	72.6
		B 書くこと	1	27.8	26.7
		C 読むこと	3	72.5	71.2
評価の観点	知識・技能	7	70.0	68.9	
	思考・判断・表現	7	66.8	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	9	74.8	73.6	
	短答式	2	64.3	62.7	
	記述式	3	52.0	51.1	



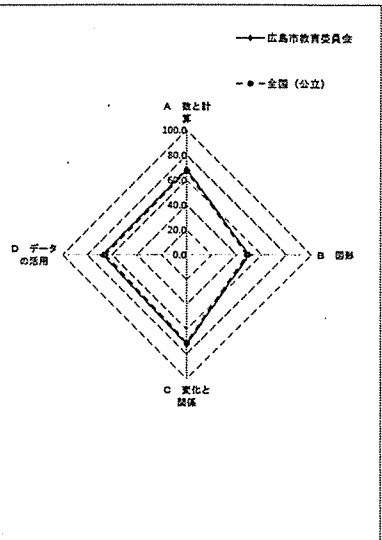
2 課題のある設問

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等					広島市教育委員会	全国	広島市教育委員会	全国
			(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	(2) 情報の扱いに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと						
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6 E	○	○	27.8	26.7	6.5	7.1	

1 集計結果

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

対象児童数	広島市教育委員会	全国
	10,167	964,350



分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)	
			広島市教育委員会	全国
全体			64	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	68.6	67.3
	B 図形	4	49.8	48.2
	C 測定	0		
	C 変化と関係	4	72.3	70.9
	D データの活用	3	67.5	65.5
評価の観点	知識・技能	9	68.9	67.2
	思考・判断・表現	7	57.9	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	5	59.8	57.7
	短答式	7	76.0	74.7
	記述式	4	48.4	47.3

*「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

2 課題のある設問

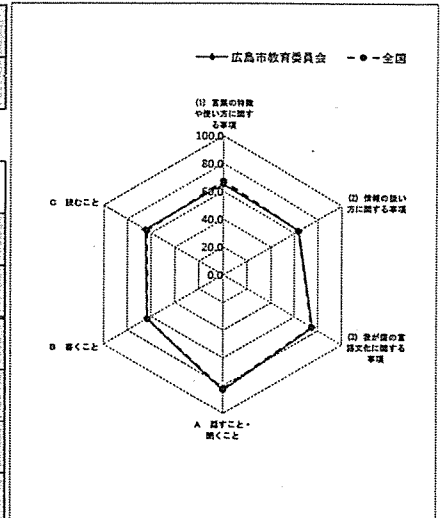
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	広島市教育委員会	全国	広島市教育委員会	全国	
2 (4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書け	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係に基づき面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる		5 (3) イ (ア)					○				○		20.3	20.8	3.6	4.0

1 集計結果

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>

対象生徒数			広島市教育委員会	全国
			8,635	892,738

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			広島市教育委員会	全国
全体			70.0	69.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.2	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	63.8	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	75.4	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	83.2	82.2
		B 書くこと	63.4	63.2
		C 読むこと	64.9	63.7
評価の観点	知識・技能	7	69.2	69.4
	思考・判断・表現	9	70.7	69.7
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	7	72.9	73.1
	短答式	4	64.4	65.6
	記述式	4	70.5	68.0



※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

2 課題のある設問

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点		問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	広島市教育委員会	全国	広島市教育委員会	全国
			(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと										
3-1	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる					1 工		○	○				52.3	54.3	0.8	0.6	

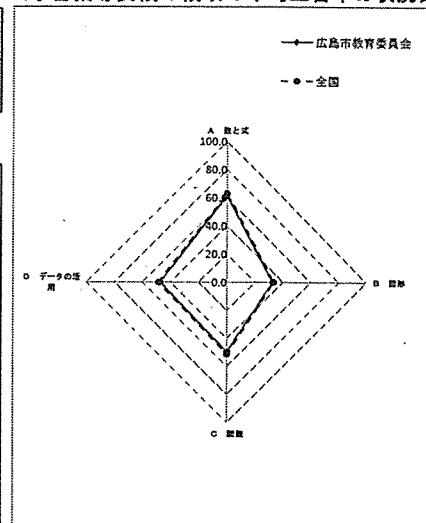
中学校数学の調査結果

広島市教育委員会一生徒

1 集計結果

対象生徒数	広島市教育委員会	全国
	8,648	893,114

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)	
			広島市教育委員会	全国
全体		15	50	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	61.8	63.0
	B 図形	3	32.2	33.2
	C 関数	4	49.5	51.2
	D データの活用	3	47.1	48.5
評価の観点	知識・技能	10	53.9	55.7
	思考・判断・表現	5	41.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	4	42.1	45.3
	短答式	6	61.8	62.6
	記述式	5	41.1	41.6

2 課題のある設問

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)	
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	広島市教育委員会	全国	広島市教育委員会	全国
8 (2)	二人の選手のグラフが直線で表されていること的前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる			2 (1) 7 (4)	○			○			58.3	61.7	1.2	1.1	

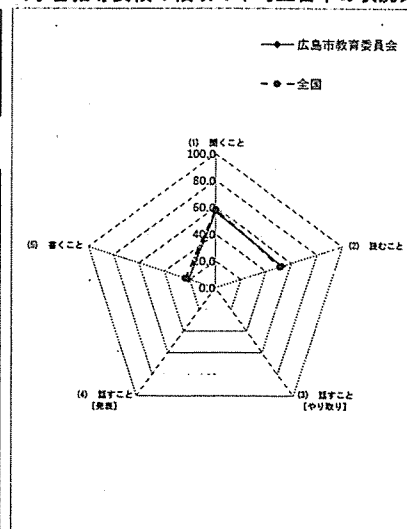
中学校英語の調査結果

広島市教育委員会一生徒

1 集計結果

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

対象生徒数	広島市教育委員会	全国
	8,638	893,528



分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)	
			広島市教育委員会	全国
全体			45	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	56.8	58.4
	(2) 読むこと	6	52.9	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	0		
	(4) 話すこと [発表]	0		
	(5) 書くこと	5	21.0	23.4
評価の観点	知識・技能	9	50.7	51.5
	思考・判断・表現	8	38.3	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	12	54.8	54.8
	短答式	3	25.8	30.1
	記述式	2	14.0	13.5

2 課題のある設問

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)	
			(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと [やり取り]	(4) 話すこと [発表]	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	広島市教育委員会	全国	広島市教育委員会	全国
9 (2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○				○	25.2	29.0	25.6	24.5	

中学校英語【話すこと】の調査結果

広島市教育委員会一生徒

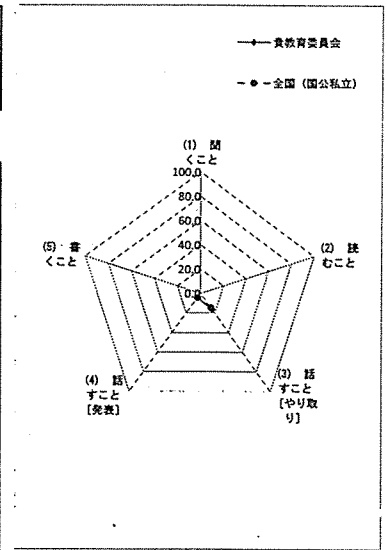
・以下の集計値／グラフは、4月18日以降5月26日までに実施した調査の結果を集計した値である。

(* がついているところの「全国(国公立)」の値は、実施状況等を考慮した統計的補正をかけ、全国値として推定されたもの。)

1 集計結果

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>*

対象生徒数	広島市教育委員会	全国(国公立)
	7,106	814,666



分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)*	
			貴教育委員会	全国(国公立)
全体		5	14	12.4
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	0		
	(2) 読むこと	0		
	(3) 話すこと [やり取り]	4	16.1	14.5
	(4) 話すこと [発表]	1	4.4	4.2
	(5) 書くこと	0		
評価の観点	知識・技能	3	12.8	13.9
	思考・判断・表現	2	15.1	10.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	0		
	短答式／口述式	3	12.8	13.9
	記述式／口述式	2	15.1	10.1

2 課題のある設問

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式		正答率(%)*		無解答率(%)*	
			(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと [やり取り]	(4) 話すこと [発表]	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式／口述式	記述式／口述式	広島市教育委員会	全国(国公立)	広島市教育委員会
1 (3)	動物園でのやり取りの中で、カンガルーが食べるものについて留学生に質問する	疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			ア			○			○		7.7	13.4	17.5	19.4

1 二 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方をくふうする

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
<p>(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。</p> <p>① 学校の米作りの問題点について、以下のことを書いている。 a 【川村さんの文章】のグラフから分かること b 【カード④】から分かること</p> <p>② 問題点の解決方法について、【カード⑤】をもとにして書いている。</p> <p>③ 60字以上、100字以内で書いている。</p>	27.8%	65.7%	6.5%

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
<p>(誤答例) 条件①a、②は満たしているが、条件①bは満たしていないもの 又は 条件①b、②は満たしているが、条件①aは満たしていないもの (反応率38.9%)</p>	<p>学校の米作りの問題点について、【川村さんの文章】のグラフから分かることか、【カード④】から分かることかのいずれかしか書いていない。このことから、グラフから分かることと、【カード④】から分かることを関係付けて捉えることができなかつたと考えられる。</p>

内容の系統と指導のポイント

小学校第1・2学年

作り方や使い方などの説明をするときには、「まず」「次に」「そして」などの順序が分かる言葉を使うと分かりやすいということに気付くことができるようにする。

自分の考えを伝えるために、言葉のつながりや使い方に注意して、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫できるようにする

- せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう (光村図書二下)
- ① おもちの作り方について書かれている文章を読み、分かりやすく伝えるための工夫を見つける。
 - ② 説明するおもちを決め、説明の順序を考える。
 - ③ 順序を表す言葉や写真、絵等を使ったり、内容のまとまりを確かめたりしながら、まとまりがはっきり分かる文章を書く。
 - ④ 書いた文章を友達と読み合い、工夫しているところを伝え合う。

B 書くこと ウ
語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。

小学校第3・4学年

友達の文と自分の文を比較して読み合う際、自分の考えが妥当な理由に支えられているか、事例が客観的な事実裏付けされているか確認したり、理由と例を区別し、文末表現の書き表し方について吟味したりすることができるようにする。

自分の考えを伝えるために、自分の考えを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫できるようにする

- 考えたことを書き、読み合おう (光村図書四下)
- ① 調べて分かったことをカードに整理し、その中から自分の考えに合う理由や例を選ぶ。
 - ② 文章の組み立てを考える。
 - ③ 理由や例を挙げたり、それらを明確に示す表現を用いたりして、自分の考えがはっきりと伝わるように文章を書く。書いた文章を読み返す。
 - ④ 書いた文章を友達と読み合い、書こうとしたことが明確になっているかなど、気付いたことや文章のよいところを伝え合う。

B 書くこと ウ
自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。

小学校第5・6学年

文章を考える際には、それぞれの資料からキーワードを見つけて囲んだり、線でつないだりすることにより、必要な資料から情報を適切に取り上げ、関係付けて書くことができるようにする。

目的を明確にし、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるようにする

- 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう (光村図書五)
- ① テーマに関する資料を基に自分の考えをもち、自分の考えに合った図表やグラフなどの資料を選ぶ。
 - ② 文章の構成を考える。
 - ③ 自分の考えと図表やグラフなどの資料との関連が分かるように、文章を書く。
 - ④ 書いた文章を友達と読み合い、文章の構成の仕方や、図表やグラフなどの資料の使い方、言葉の選び方等について、よいところを伝え合う。

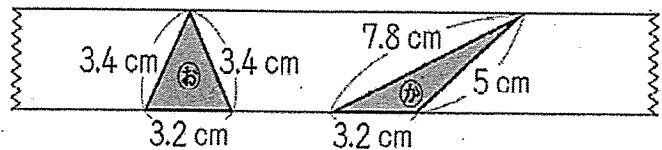
B 書くこと エ
引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

本設問の活用手順

- ① 文章を書き始める場面では、書く目的や内容を検討する時間を設定し、伝える相手を明確にしたり、経験を基に材料を集めたり、何をどのように書くかを考えたりできるようにする。
- ② 情報を整理する場面では、情報の扱い方に関する知識及び技能(情報と情報との関係、情報の整理)との関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。必要な情報に印を付けたり、情報と情報を矢印でつないだり、表を用いてまとめたりするなどして、情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるようにする。その際、ICT機器を活用することも効果的である。
- ③ 文章を記述する場面では、友達と助言し合いながら、児童自身が自分の文章を何度も見直したり、書き直したりできるようにする。また、必要に応じて図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、それらを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できる文章になることを実感できるようにする。

2 (4) 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年〕B 図形

(3) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
(正答の条件) 番号を3と選び、次の①、②の全てを書いている。 ① 三角形㊸と三角形㊹の底辺の長さが等しいことを表す言葉や数 ② 三角形㊸と三角形㊹の高さが等しいことを表す言葉	20.3%	76.1%	3.6%

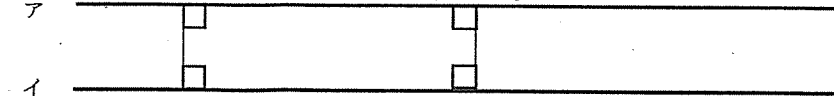
■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
(誤答例) 番号を4と選び、高さについて具体的な長さが示されていないことを書いているもの (反応率 16.8%)	高さについて具体的な長さが示されていないことを記述し、三角形㊸と三角形㊹の面積はこのままでは比べることができないと判断している。

小学校第4学年

平行な直線の特徴を調べる

○ 2本の平行な直線ア、イの幅を調べる。



- ① 2本の平行な直線の上に垂直な直線を何本か引いて、幅を調べる。
- ② 2本の平行な直線を伸ばし、幅を調べる。

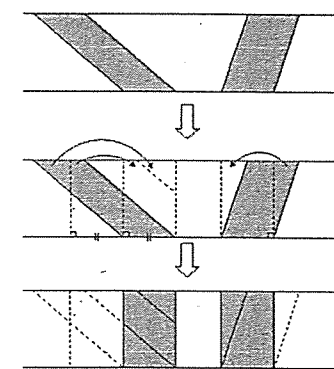
〔図形〕

直線の平行や垂直の関係について理解すること。

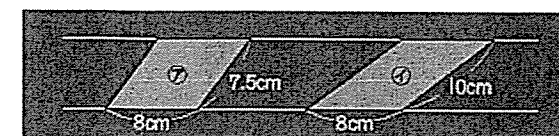
小学校第5学年

底辺と高さの関係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにする

- ① 平行な直線にはさまれた底辺が等しい二つの平行四辺形を、下の図のように等積変形で長方形に帰着させたとき、長方形の縦と横が、元の平行四辺形の底辺と高さに対応することを理解させる。



- ② ㊸と㊹の面積が等しいことを説明させる。



〔図形〕

基本図形の面積の求め方を、図形を構成する要素などに着目して、既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり、説明したりすること。

本設問の活用の手順

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて説明できるようにするために、

- ① 面積が等しく形が異なる三角形の面積について、実際に計算で面積を求めることで、底辺と高さがそれぞれ等しければ面積が等しくなることを理解できるようにする。
- ② 底辺と高さがそれぞれ等しければ、三角形の面積は等しくなるということを、三角形の面積の公式から判断できるようにする。
- ③ 図形の面積を求めるために、どの部分の長さが必要かを考えることで、公式の理解を深めることができるようにする。

3-1 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える

1 「判じ絵」を知ったきっかけを明確にしようとした。
 2 「判じ絵」が現代に伝わった理由を明確にしよとした。
 3 「判じ絵」に興味をもったきっかけを明確にしよとした。
 4 「判じ絵」を調べることにした理由を明確にしよとした。

「判じ絵」について 山田 光一

1. はじめに
 学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもたえ、詳しく調べることにした。

2. 調査方法
 学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3. 調査結果
 ■「判じ絵」とは何か
 「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。(ア)ただし、【図1】のように、描かれているもの【図1】ザルと意味しているものが異なるため、解読する際には、「判じ絵」ことが必要になる。(イ)言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものである。(ウ)また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ)そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ)さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見るることができる。

■「判じ絵」の解読の面白さ
 「判じ絵」の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。

【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

【図3】は、

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。 <<推敲>>

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
4 「判じ絵」を調べることにした理由を明確にしよとした。	52.3%	46.9%	0.8%

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
3 「判じ絵」に興味をもったきっかけを明確にしよとした。 (反応率 29.3%)	「ため」の前後の関係が「原因と結果」の関係になることを十分に理解できていないと考えられる。

小学校第5・6学年

図表やグラフを用いた目的や意図を捉える
 平成31年度全国学力・学習状況調査 (小学校)
 1- 公衆電話について調べたことを【報告する文章】で(資料2)と(資料3)をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する。
 (正答)
 資料2…2と解答しているもの
 資料3…4と解答しているもの
 正答率75.2% 誤答率24.2% 無答率0.6% (国立教育政策研究所HP)

中学校第1学年

書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているか検討する
 平成30年度全国学力・学習状況調査 A問題 (中学校)
 4- 意見文の下書きに一文を書き加える意図として適切なものを選択する。
 (正答)
 4と解答しているもの
 正答率60.3% 誤答率39.4% 無答率0.6% (国立教育政策研究所HP)

中学校第2学年

書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する
 平成31年度全国学力・学習状況調査 (中学校)
 3- 意見文の下書きに読み手にとってわかりやすい文章にするために、書き加える言葉として適切なものを選択する。
 (正答)
 3と解答しているもの
 正答率87.3% 誤答率12.3% 無答率0.4% (国立教育政策研究所HP)

「読むこと」の学習においても、文章の構成、表記、語句の用法、叙述の仕方や表現の効果などに注目して文章を読む活動を繰り返し行い、読み手としての力を育てていく。

本設問の活用の手順

- ① 読み手の立場に立って文章の構成、表記、語句の用法、叙述の仕方や表現の効果などを確認しながら文章を整えることができるよう、新聞に意見文を投書する活動を設定し、意見文の下書きについて推敲させる。
- ② 意見文の下書きを個人で作成した後、①において確認した事項を観点としてグループで読み合い、それぞれの観点において読み手を意識して書くことができているか検討させる。
- ③ グループで検討した内容を基に推敲し、意見文を完成させる。

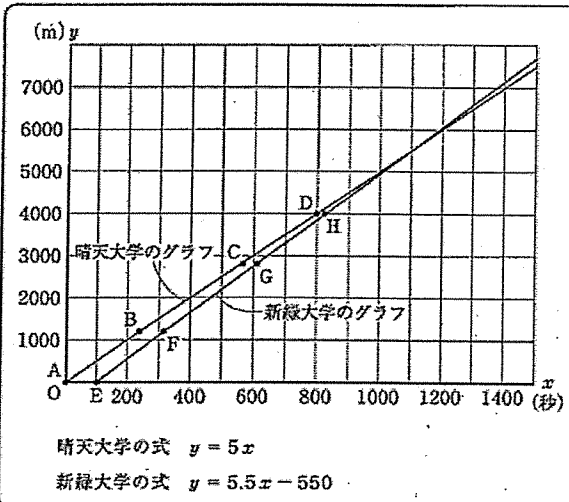
8 (2) 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができる

(2) 大権さんは、前ページの6区の選手の記録のグラフを見て、点Aから点Dまで、点Eから点Hまでの各点がそれぞれ一直線上にあると考えることにしました。そこで、コンピュータを使って、次のような2つの直線に表したところ、それぞれの x と y の関係を表す式は、晴天大学が $y = 5x$ 、新緑大学が $y = 5.5x - 550$ と表されました。

晴天大学のグラフと新緑大学のグラフがそれぞれ直線で表されていることは、二人の選手について、が一定であると考えたことになります。

晴天大学のグラフと新緑大学のグラフがそれぞれ直線で表されていることは、二人の選手について、が一定であると考えたことになります。

コンピュータを使って表された直線のグラフと式



上のに当てはまる言葉として正しいものを、下のAからEまでの中から1つ選びなさい。

- A それぞれの走る速さ
- I それぞれの走る時間
- ウ それぞれの走る道のり
- E 走る時間の差
- オ 走る道のりの差

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 C 関数

(1) 一次関数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知ること。

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
ア それぞれの走る速さ	58.3%	40.5%	1.2%

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
ウ それぞれの走る道のり (反応率18.5%)	直線のグラフを事象に即して解釈することができていないため、文章中の「一定である」という文言から、二つの大学のグラフが直線で表されていることは、二人の選手について、それぞれの走る道のりが一定であると捉えたと考えられる。

小学校第6学年

比例する2つの数量についてのグラフが直線になることを、具体的な数量に則して理解できるようにする。

比例する2つの数量の関係をグラフに表して、特ちょうを調べよう。(東京書籍第6学年)

直方体の形をした水そうに水を入れるときの、水を入れる時間 x 分と水そうの深さ y cmのとき、関係をグラフに表す。

- ① 2つの数量の関係を表で表す。
- ② 表の x と y の値の組をグラフに点で表す。
- ③ グラフの点がどのように並んでいるか考える。
- ④ 1分あたりに入る水の深さを変えたグラフと比べて、共通することや違うことについて話し合う。

〔変化と関係〕

比例の関係の意味や性質を理解すること。

中学校第2学年

具体的な事象について表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるようにする。

平成30年度全国学力・学習状況調査

3 大一さんは、自分の地域を走る列車の写真を撮影し、紹介しようと考えています。そこで、ダイヤグラムを参考にして、撮影計画を立てることになりました。
ダイヤグラムとは、下のように、横軸を時刻、縦軸をある駅からの道のりとし、駅と駅間の列車の運行の様子を直線で表したものです。

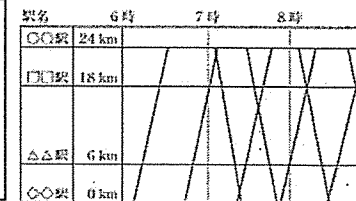
次の〔1〕から〔3〕までの各問いに答えなさい。

〔1〕ダイヤグラムでは、列車の運行の様子が直線で表されています。このように直線で表しているのは、次のように考えているからです。

列車の運行の様子を直線で表しているのは、が一定であると考えているからです。



実際は列車の速さは一定ではないが、理想化・単純化して速さが一定であるとみなして表すことで、列車の運行の様子が分かりやすくなる。



上のに当てはまる言葉として正しいものを、下のAからEまでの中から1つ選びなさい。

- A 列車の速さ
- I 列車の組成時刻
- ウ 列車の到着時刻
- E 列車の走行距離

正答率 66.9% 誤答率 32.4% 無答率 0.7% (広島市)

〔関数〕

事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知ること。

本設問の活用の手順

速報を見て新緑大学が晴天大学に追いつきそうだと考え、その地点を予想しようとしています。そこで、「スタート地点からの道のりは時間の関数である」ことを確認し、6区の各地点の記録をまとめた表とグラフを用いて考えることにしました。

事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるようにするために、

- ① スタートしてからの時間を x 秒、6区の選手の走った道のりを y mとして、グラフに点を打つ。
- ② 追いつく地点をグラフ上で予想し、なぜそのように考えたかを、グループで話し合う場を設定する。
- ③ 生徒の「直線」という発言を取り上げ、なぜ直線とみなしたのか、グループ内で説明し合う場を設定する。
- ④ 「グラフが直線であるということは、この事象で選手の()が()であると考えたことになる」の空欄について考えることができるようにする。

6区の各地点の記録をまとめた表

地点	スタート地点からの道のり	晴天大学	新緑大学
スタート地点	0 m	0 秒	100 秒
図書館前	1200 m	238 秒	316 秒
郵便局前	2800 m	567 秒	611 秒
駅前	4000 m	798 秒	824 秒

9 (2)文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書く

(2) 次の英文は、ある生徒が文書作成ソフトを使って、スピーチコンテスト (speech contest) についてスミス先生 (Mr. Smith)宛てに書いた【メール文の下書きの一部】です。送信する前に友達に相談したところ、友達から【コメント】をもらいました。【コメント】にしたがって、下線部を書き直さない。

【メール文の下書きの一部】

Dear Mr. Smith,

How are you?

We have a speech contest next Friday.

The speech contest starts at 10:00.

You have to come to the speech contest.

【コメント】



この英文は、依頼する表現に修正したほうがよいと思う。

■学習指導要領における領域・内容
書くこと

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

内容 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

イ 符号 ウ 語、連語及び慣用表現 エ 文、文構造及び文法事項

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

② 言語の働きに関する事項

イ 言語の働きの例 (オ) 相手の行動を促す

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書いているもの (正答例) ・ Can you come to the speech contest? 「相手の行動を促す」という言語の働きを理解しているが、命令文を用いた表現となっているもの (please を文頭に用いているもの) (正答例) ・ Please come to the speech contest. 依頼する表現を書いているが、大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの (正答例) ・ can you come to the speech contest?	25.2%	49.2%	25.6%

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
解答類型4までとは異なる誤りがあるもの (反応率40.4%) (例) ・ Let's go to the speech contest. (提案する表現を用いている) ・ Do you come to the speech contest? (依頼する表現以外の疑問文になっている) ・ Have you come to the speech contest? ・ You want to come to the speech contest.	依頼する表現以外の疑問文になっているなど、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解して表現を使い分けることができていないと考えられる。または、「依頼する英文に書き直す」という状況を理解できていないと考えられる。

小学校第5学年

ていねいに注文をしたり、値段をたずねたりすることができるようにする。

ふるさとメニューを注文しよう。(東京書籍第5学年)

- 登場人物がていねいに注文したり、値段をたずねたりする場面や世界の料理についての話を聞く。
- ピクチャーディクショナリーを使って注文したり、値段をたずね合ったり、メニューを考えたりする。
- 歌やチャンツ、ピクチャーディクショナリーなどを使いながら、デザート、味など、食べ物、飲み物、教、に関する語句や表現に慣れ親しむ。
- 日本各地の名物を決めて、ピクチャーディクショナリーを使って注文をしたり、会計し合った上で、「ふるさとメニュートレイ」と巻末絵カードを使ったりして、買い物をし合う。
- 世界の食文化や、英語と日本語との違いについて考える。
- 東北地方に住むカリン・ラフィットさんの映像を視聴する。
- 複数の小文字の名前を聞いて書く。単語の始まりの音や終わりの音に慣れ親しむ。

【話すこと(やり取り)】小学校学習指導要領 外国語

ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。

指導の際には、表現を教えるだけでなく、質問したり、依頼したりすることなどによって、他者に働きかけて相手の行動を促すことができることに気付かせることが重要である。また、相手の行動を促す際には、身振りや表情、ジェスチャーなどの非言語的要素の活用も重要であることを指導する。

中学校第2学年

コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、事実、自分の考えや気持ちを伝えたり、依頼したりする英文を書くことができるようにする。



教科書に点在している表現がもつ言語の働きを整理する。
例：相手の行動を促す
・ 質問する
・ 依頼する
・ 招待する
・ 命令する など

コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確に設定する。

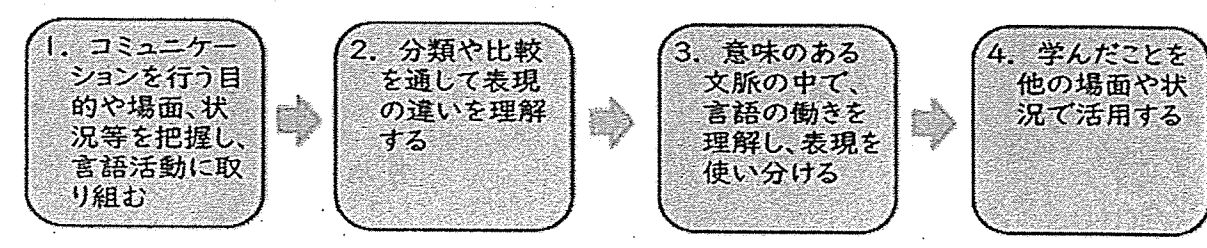


目的や場面、状況に応じて、生徒が表現を使い分ける活動を繰り返し行う。

【書くこと】中学校学習指導要領 外国語
イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。
実際のコミュニケーションにおいて複数の表現を取り上げた上で、使用した表現を共有し、分類や比較を通して表現がもつ言語の働きを考えることが大切である。また、理解した言語の働きを別の文脈においても活用できるようにするために、異なる場面や状況を設定して、同じ言語の働きをもつ表現を使い分ける活動を繰り返し行うことが考えられる。

本設問の活用の手順

「言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける」ことができるようにするために、



1 (3) 即興で伝え合う



(スクリプト)

Look! Kangaroos! They are really famous in my country, Australia. I know a lot about them. Do you have any questions about kangaroos? Please ask me.

■学習指導要領における領域・内容

話すこと [やり取り]

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

内容 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

ア 音声 ウ語、連語及び慣用表現 工文、文構造及び文法事項

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
カンガルーが食べるものについて正しく質問しているもの (正答例) ・ What food do they eat?			
カンガルーが食べるものについて質問しているが、コミュニケーションに支障をきたさない程度の誤りがあるもの (正答例) ・ What food do kangaroo eat?	7.6%	74.8%	17.5%

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
カンガルーが食べるものについて質問しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの (反応率33.6%) (例) ・ What do they eat food? ・ What food kangaroo eat? ・ What they do eating?	簡単な語句や文を用いて即興で伝え合う経験が不足していると考えられる。また、助動詞 (do または does) の脱落や語順の誤りが見られることから、疑問文の特徴を理解して、基本的な語や文法事項等を用いて質問することに課題があると考えられる。

小学校第5学年

名前や好きなもの・ことを伝えることができるようにする。
名刺交換をしよう。(東京書籍第5学年)

- 登場人物の学校での会話や名前、好き嫌いなどの自己紹介や、海外の友達の自己紹介を聞く。
- 友達と好きなもの・ことをたずね合ったり、巻末絵カードを使って、英語の語順を考えたりする。
- 歌やチャンツ、ピクチャーディクショナリーなどを使いながら、スポーツ、学校、色、食べ物に関する語句や表現に慣れ親しむ。
- 名前やつづり、好きなもの・ことを友達とたずね合った上で、「名刺カード」を作り、交換する。
- 世界の名前や、英語と日本語の違いについて考える。
- 北海道地方に住むロス・フィンドレーさんの映像を観る。
- 活字体の大文字を読んだり、書いたりする。登場人物がでいいいに注文したり、値段をたずねたりする場面や世界の料理についての話を聞く。

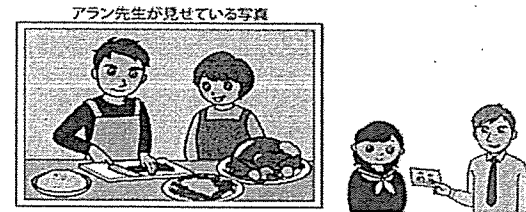
【話すこと(やり取り)】小学校学習指導要領 外国語
イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
日常生活に関する身近で簡単な事柄について、児童が自分の考えをもつことができるようになる指導を、単元や授業の中で必要に応じて行うことが考えられる。また、やり取りがある程度は継続するように、相手が言ったことを繰り返したり、応答したり、質問したりすることができるようになるための指導も必要である。

中学校第2学年

会話の流れに応じて関連する多様な質問を即座にすることができるようにする。
平成31年度全国学力・学習状況調査(「話すこと」大問2)

あなたは、ユイコとアラン先生と話しています。まず、ユイコとアラン先生が、2人で話している場面から始まります。そのあと、あなたが尋ねられたら、2人のやり取りの内容を踏まえて、会話が続いていくように英語で応じてください。解答時間は20秒です。それでは始めます。

「Small Talk」を授業に取り入れ、テーマに即した相手の発言に応じて、関連する質問等を即座にする活動を繰り返し且つ継続的に行う。

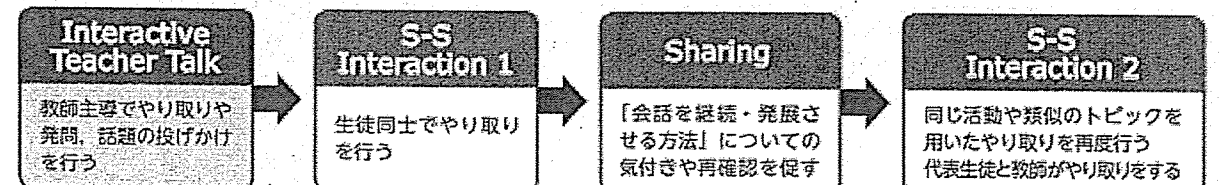


A: Look at this picture of my family.
This is my favorite picture.
Y: Nice! Who is she?
A: Oh, she is my mother, Nancy. And he is my brother, Tom. He can cook very well.
Y: I see. What kind of work does your mother do?
A: She is a teacher.
Do you have any other questions about them?

【話すこと(やり取り)】
ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。
Yes-No 疑問文や or を含む選択疑問文、Wh-疑問文などについて、語順、動詞の形の変化、イントネーションなどを意識するよう指導者が声かけをすることが大切である。生徒自身が教師や外国語指導助手(ALT)に質問する場面や生徒同士で質問し合う場面を設定し、適宜正確さを高める指導を行うことが考えられる。

本設問の活用の手順

「対話を継続発展させるために、関連する質問をする」ことができるようにするために、



抽出項目（経年変化）								
【児童・生徒質問紙】								
	質問事項	校種	H30	H31 (R01)	R03	R04	R05	特徴
(1) 学習意欲	① 国語の勉強が好き	小学校	—	63.1	57.1	57.5	58.6(61.5)	すべての質問について中学校で肯定的回答をした生徒の割合は、全国平均と比較して高い(0.4~2.8ポイント)状況であるものの、小学校では肯定的回答をした児童の割合は全国平均と比較して低い状況(1.1~2.9ポイント)である。
		中学校	—	62.8	60.2	60.9	61.8(61.4)	
	② 算数・数学の勉強が好き	小学校	61.7	66.1	66.1	60.3	60.3(61.4)	
		中学校	55.3	55.6	60.1	58.5	59.5(56.7)	
	③ 英語の勉強が好き	小学校	—	—	—	—	68.2(69.3)	
		中学校	—	53.1	—	—	53.3(51.9)	
(2) 自尊心	① 自分にはよいところがある	小学校	87.2	83.7	77.9	80.0	85.2(83.5)	②の質問について小学校で肯定的回答をした児童の割合は、全国平均と比較して0.5ポイント下回ったものの、それ以外の質問については、肯定的回答をした児童生徒の割合は、全国平均と比較して高い状況(0.4~3.2ポイント)である。 また、①の質問については、令和4年度と比べると、小学校、中学校ともに増加(0.5~5.2ポイント)している。
		中学校	83.2	77.2	79.5	82.7	83.2(80.0)	
	② 将来の夢や目標を持っている	小学校	87.8	86.0	79.8	80.1	81.0(81.5)	
		中学校	75.2	73.2	70.4	70.0	69.0(66.3)	
	③ 学校に行くのは楽しいと思う	小学校	—	87.5	84.0	84.7	85.7(85.3)	
		中学校	—	83.6	82.2	83.4	83.2(81.8)	
	④ 人の役に立つ人間になりたいと思う	小学校	95.9	95.6	95.8	95.4	96.7(95.9)	
		中学校	96.1	95.0	95.2	95.9	95.0(94.6)	
(3) 主体的・対話的で深い学び	① 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ	小学校	77.5	77.9	77.8	77.0	79.2(78.8)	②の質問について小学校、中学校ともに肯定的回答をした児童生徒の割合は、全国平均と比較して低い状況(0.5~2.6ポイント)である。 ①③④の質問について小学校、中学校ともに肯定的回答をした児童生徒の割合は、全国平均と比較して高い状況(0.4~2.3ポイント)である。 また、①③の質問については、令和4年度と比べると、小学校、中学校ともに増加(1.4~2.2ポイント)している。
		中学校	78.1	78.1	83.3	79.3	80.7(79.2)	
	② 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫した	小学校	62.3	64.5	63.4	65.5	63.2(63.7)	
		中学校	58.4	59.7	62.4	60.4	59.5(62.1)	
	③ 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	小学校	79.4	75.5	81.0	82.3	84.1(81.8)	
		中学校	80.0	76.5	79.4	79.4	81.2(79.7)	
	④ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。	小学校	—	—	79.4	78.5	78.9(77.4)	
		中学校	—	—	76.4	75.6	71.1(69.2)	
(4) 学習・生活習慣	① 家で、自分で計画を立てて勉強している	小学校	67.5	70.3	72.1	66.9	68.0(70.7)	③の質問について中学校で肯定的回答をした生徒の割合は、全国平均と比較して3.9ポイント上回ったものの、それ以外の質問については、肯定的回答をした児童生徒の割合は全国平均と比較して低い状況(0.6~5.2ポイント)である。
		中学校	54.6	51.5	65.6	58.0	53.9(55.0)	
	② 学校の授業時間以外の普段(月~金曜日)の1日あたりの勉強時間(30分以上:塾・家庭教師等を含む)	小学校	91.5	90.9	87.0	84.5	83.4(84.0)	
		中学校	84.7	84.8	89.5	82.9	78.6(83.8)	
	③ 学校の授業時間以外の普段(月~金曜日)の1日あたりの読書時間(「全くしない」の回答以外:教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	小学校	81.7	82.8	77.7	73.8	82.8(86.2)	
		中学校	70.7	68.7	67.2	64.5	66.5(62.6)	
【学校質問紙】								
(5) 指導方法	① 学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した。(新規)	小学校	—	—	—	—	90.8(93.1)	①の質問について小学校で肯定的回答をした学校の割合は全国と比較して2.3ポイント下回ったものの、中学校で肯定的回答をした学校の割合は全国と比較して4.4ポイント高い状況である。 ②③④⑤の質問について小学校、中学校ともに肯定的回答をした学校の割合は、全国平均と比較して低い状況(0.4~8.1ポイント)である。
		中学校	—	—	—	—	95.3(90.9)	
	② 国語の指導として、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝えあい、自分の文章の良いところを見つけるような指導をしている。(新規)	小学校	—	—	—	—	90.8(92.4)	
		中学校	—	—	—	—	85.9(94.0)	
	③ 算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業をしている	小学校	74.0	85.9	82.4	83.6	90.8(92.1)	
		中学校	61.0	81.2	73.0	84.4	86.0(88.0)	
	④ 英語の指導として、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行った。	中学校	—	71.9	—	—	75.0(75.4)	
		中学校	—	62.5	—	—	73.5(76.8)	

※ 表中の [] は、全国平均を上回っている項目を示している

※ 表中「—」は、当該年調査で実施していない設問を示している

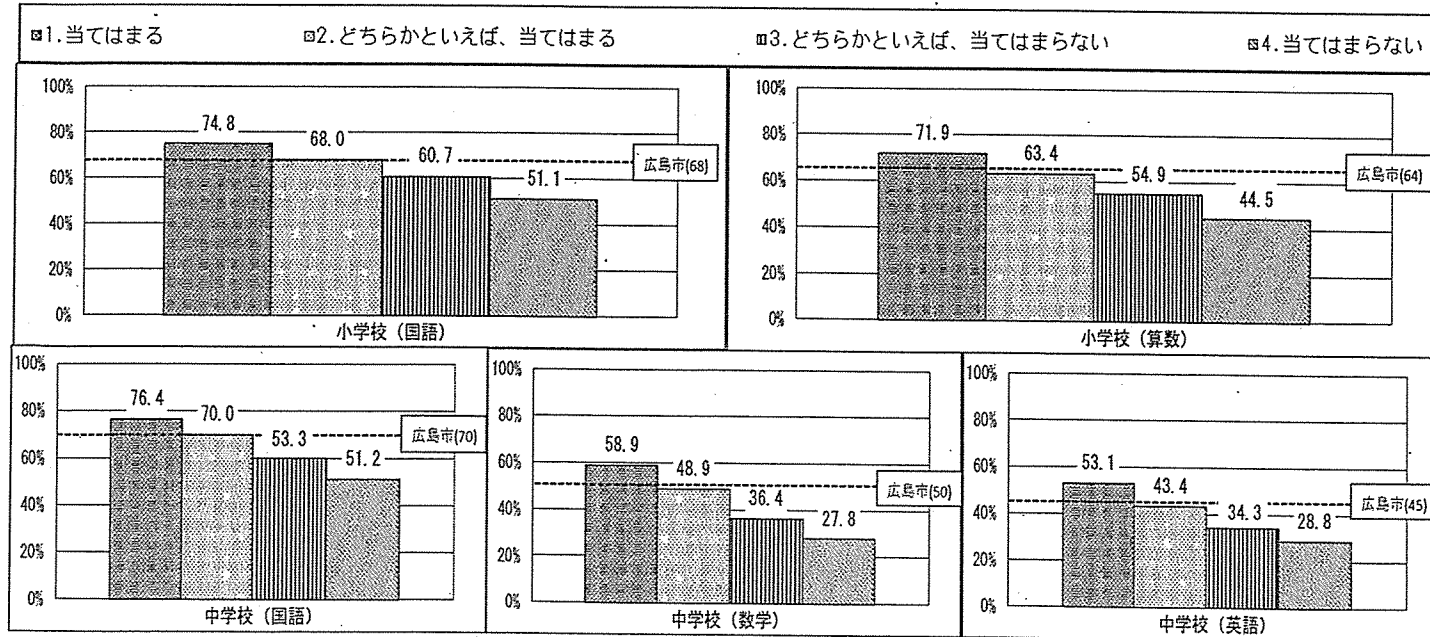
※表中、令和5年度()は、全国平均を示している。

抽出項目（経年変化）								
	質問事項	校種	H30	H31 (R01)	R03	R04	R05	特徴
〔児童生徒質問紙〕 ICTを活用した学習状況	① 5年生までに（1、2年生のときに） 受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用した	小学校	—	27.2	28.4	70.9	87.8(86.3)	①の質問について小学校で「週一回以上使用した」と回答した児童の割合は、全国平均と比較して1.5ポイント上回ったものの、中学校では6.6ポイント低い状況である。 ②の質問について小学校、中学校ともに肯定的回答をした児童生徒の割合は、全国平均と比較してそれぞれ0.2、0.7ポイント高い状況である。 ③の質問について小学校、中学校ともに「30分以上使用している」と回答をした児童生徒の割合は、全国平均と比較してそれぞれ3.6、3.4ポイント低い状況である。
		中学校	—	37.6	31.7	55.2	80.9(87.5)	
	② 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う	小学校	—	—	94.5	95.3	95.3(95.1)	
		中学校	—	—	94.6	93.7	94.0(93.3)	
	③ 授業以外で普段（月曜日から金曜日）、1日当たり30分以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っている	小学校	—	—	36.1	36.2	37.5(41.1)	
		中学校	—	—	42.3	38.1	27.8(31.2)	
〔学校質問紙〕 ICTを活用した学習状況	① 前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を1クラス当たりほぼ毎日使っている	小学校	—	—	73.5	81.4	92.2(72.7)	①の質問について小学校、中学校ともに「ほぼ毎日使用した」と回答した学校の割合は、全国平均と比較してそれぞれ19.5、14.1ポイント高い状況である。 ②の質問について小学校で肯定的回答をした学校の割合は全国平均と比較して0.2ポイント下回ったものの、中学校では0.7ポイント高い状況である。 ③④⑤の質問について小学校、中学校ともに「週一回以上活用した」と回答をした学校の割合は、全国平均と比較して低い状況（0.4～15.9ポイント）であるが、令和4年度と比べると、小学校、中学校ともに増加（11.5～56.7ポイント）している。
		中学校	—	—	73.0	76.6	85.9(71.8)	
	② 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある	小学校	—	—	61.8	90.7	95.7(95.9)	
		中学校	—	—	46.0	84.4	92.2(91.5)	
	③ 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で週1回以上活用した	小学校	—	—	—	87.1	98.6(99.0)	
		中学校	—	—	—	76.6	92.2(97.7)	
	④ 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、児童生徒の特性・学習進度等に応じた指導に、週1回以上活用した	小学校	—	—	—	13.6	70.3(77.9)	
		中学校	—	—	—	12.5	51.6(67.5)	
	⑤ 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、児童生徒が自分の考えをまとめ、発表、表現する場面で週1回以上活用した。	小学校	—	—	—	39.3	67.4(76.4)	
		中学校	—	—	—	50.0	62.6(76.2)	

※ 表中の■は、全国平均を上回っている項目を示している ※ 表中「—」は、当該年調査で実施していない設問を示している ※表中、令和5年度（ ）は、全国平均を示している。

4 児童生徒質問紙と学力のクロス集計（肯定的回答をしている児童生徒ほど教科の平均正答率が高い傾向があった質問）

(1) 5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



(2) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

